

2013(平成25)年度 Qualifying Examination(QE)実施結果報告

グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教
山本 圭介

グリーンアジア(GA)国際戦略プログラムの特徴の一つが、ステージゲート制である。一般的な博士課程教育(修士課程を含む)では、修了および学位取得に必要とされる大きな関門は修士論文・博士論文それぞれの学位審査の計2回であるが、GAプログラムではそれぞれ主旨の異なる計5回の関門(ステージゲート)が設けられており、これによって教育の水準・質の継続的な保証を目指している。そして、GAプログラムでコース生が初めて挑むステージゲートが、入学後約2年経過時に行われるQualifying Examination(QE)である。时期的には、一般学生の修士論文試問会と同時期であるが、その目的・内容は大きく異なっている。修士論文試問会は修士の学位授与と審査であるのに対して、QEは今後のGAカリキュラムを履修する上での基礎的能力を身に付けているか(身に付けてきたか)を認定(qualifying)する試験である(但し、後述するようにQE不合格者に対するケアを考慮して、QEは修士の学位授与と審査を一部内包している)。このため、QEで課される項目は、質・量ともにかかなり高い。まず、コース生がQEに臨むためには、「必修単位を40単位以上取得(内訳は別途指定有)」という受験要件を満たさなければならない。一般学生の修士修了要件が「30単位以上取得」であることから、ハードルの高さがお分かり頂けるかと思う。受験要件を満たしたコース生は、QE本番で「1. 講究(研究室ローテーション)の成果発表報告」「2. プラクティススクール(インターンシップ)の成果発表報告」「3. 小論文試験」「4. 専門科目筆記試験」が課せられる。もちろん、これら試験は全て英語で行われる。これらに加えて「5. 取得単位のGPAが3.0以上」という要件を満たして、晴れてコース生はQEに合格し、続く3年間のカリキュラム(博士後期課程)に進級できることになる。

2014年2月に、第一期のコース生(2012年12月入コース)6名が、初めてQEを受験することになった。これに先立って、QE実施に係る詳細な検討とルール作りが行われた。QEは、厳格に行われる「試験」であるので、「不合格」となるコース生が現れることも想定される。もし残念ながら不合格となってしまった学生に対しては、今後の学位授与や進路等について道筋を示す必要がある。このような点やその他の詳細なルールに関して、GAプログラム担当者内で認識の確認と明確化を行った。これらの内容は、QE実施のスケジュールと合わせて「QE実施要項」としてまとめ、関係教職員・コース生に配布してある。ちなみに、QEで具体的に試験として課せられる項目は上述の「1. ~ 4.」であるが、このうち「2. プラクティススクール(インターンシップ)の成果発表報告」は時期を前倒して2013年10月に行っている。この理由には、多くのコース生が2013年の夏にプラクティススクールを実施したため成果発表まであまり間を空けたくないという点と、2月に行うQE本番での実施項目を少なくし学生の負担を分散したいという点の、2点が挙げられる。

QE本番は2014年2月24日に行われた。午前中の内容は「1. 講究(研究室ローテーション)の成果発表報告」である。コース生は2年間に実施した異なる3研究室での研究全てについて発表を行わなければならない。発表時間は15分、質疑応答時間は10分と、一般的

な修士論文試問会よりも長めである。聴講者からは研究に関する厳しい質問が飛び交った。午後には「3. 小論文試験」「4. 専門科目筆記試験」が行われた。小論文のテーマの詳細について本稿では伏せておくが、この2年間の勉学・研究を総合的に振り返るような内容である。終了は午後4時で、朝8時半の開始から丸一日を戦い続けたコース生らの頑張りを称えたい。

結果は速やかに採点・集計され、翌々日の査定会議にて結果が話し合われ、第一期コース生の6名については全員が合格の判定が下された。コース生それぞれに対して評価に違いはあるものの、皆今後もGAコース生として学ぶ上での基礎的素養は十分に備えているとの判断で、今回のQEは締めくくられた。

おわりに、GAプログラムとしての初めてのQEを準備から最終的な採点・集計に渡って携わった身として、個人的な所感を述べたい。まず、第一期コース生の6名について、彼らは皆もともと良い素質を有していたが、この1年半でその素質を大きく伸ばしていることが如実に感じられた。特に、英語プレゼンテーションの能力向上が顕著であった。この点は続く二期以降のコース生にもぜひ見習ってもらいたい。小論文に関しては、修士2年生レベルとしては語学力・論理性ともにかかなり上手く書けているが、全体的に粗削りな印象を受けたので、今後のさらなる上達を期待したい。最後にプログラムの運営体制について、QEの実施された2013年度末は各種講義や海外実習等が立て続けに予定として組まれ、コース生には大変な過密スケジュールを強いてしまった。これはQEのみならず今後のプログラム運営における大きな問題点と認識しており、速やかな改善が必要である。

